

文部科学省委託事業

現職教員の新たな免許状取得を促進する講習等開発事業

自律的なオンライン講習のカリキュラムデザインと 教えないで学べる学習環境の設計

岐阜女子大学

現職教員の新たな免許状取得を促進する講習等開発事業

～ 自律的なオンライン講習のカリキュラムデザインと教えないで学べる学習環境の設計 ～

社会的背景

教員には、学校段階間の接続を見通した常に義務教育9年間全体を俯瞰する視点を持ちつつ指導する力や、教科横断的な視点で学習内容を組み立てる力など、複数の学校種・教科等にわたる幅広い理解に基づいた総合的な指導力を教職生涯において身に付けることが、より一層期待されている。

また、教育DX(Digital Transformation)は、教員がオンライン技術を活用して、学びのあり方やカリキュラムを革新し、同時に、業務や組織、プロセス、学校文化の変革など、時代の変化に対応した教育ができる人材が求められている。

本事業の目的

教員自身が時代や社会、環境の変化を的確につかみ取り、その時々状況に応じた適切な教育の提供を行うために、教員が自ら課題を持って、主体的に講習に参加し、複数の学校種・教科等にわたる幅広い理解に基づいた総合的な指導力を向上させることができるカリキュラムの開発を目指す。

具体的には、受講者のニーズに応じて柔軟に講習内容を組み合わせたり、自律的に学ぶことができるオンライン講習(以下「自律的なオンライン講習」とする)を取り入れたりするなど、教員が主体的に学ぶことができる学習環境を考える。

本事業では、教員の資質能力向上を目指す教育データの利活用と新たな学習指導を研究し、自律的なオンライン講習のカリキュラムデザインと教えないで学べる新たな学習環境を開発する。

調査研究事業の内容

1 自律的なオンライン講習のカリキュラムデザインと教えないで学べる学習環境の設計

講習の目的は「教えること」ではなく、学習者が「自ら学ぶ」ことを手助けし、学習者に「行動変容」が起こることである。「教えない」講習が主体的な学び手を前提として、よりフレキシブルな学習環境を提供すると共に、本講習の対象者である大人の学習であるアンドラゴジーの原則を踏まえるカリキュラムとする。

2 教育データの利活用と新たな学習指導の開発

GIGA スクール構想により、児童生徒1人1台端末環境の実現が進む中、全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現していくため、教育データの効果的な利活用を促進することが必要である。

そのために、データサイエンスやこれまでの教育実践の「経験知」の可視化等、教師の経験知と科学的視点のベストミックスした新たな学習指導について考える。

3 学習環境としての教育リソースの整備

教員自身が時代や社会、環境の変化を的確につかみ取り、その時々状況に応じた適切な教育の提供を行うためには、教員が自ら課題を持って、主体的に講座に参加する体制の確立が必要である。

そのためにも教育実践に関する調査研究や教育資料をデジタルアーカイブ化することにより、教育リソース(デジタル化された教育資料)を縦横に使いこなし、「新たな学びの空間」を創造するための知識やツールを提供する。

課題

- 小中連携コーディネータの養成カリキュラムの開発
- 複数の学校種・教科等にわたる幅広い理解に基づいた総合的な指導力の構造化
- 教員不足へのアクションとしての有用性の検証

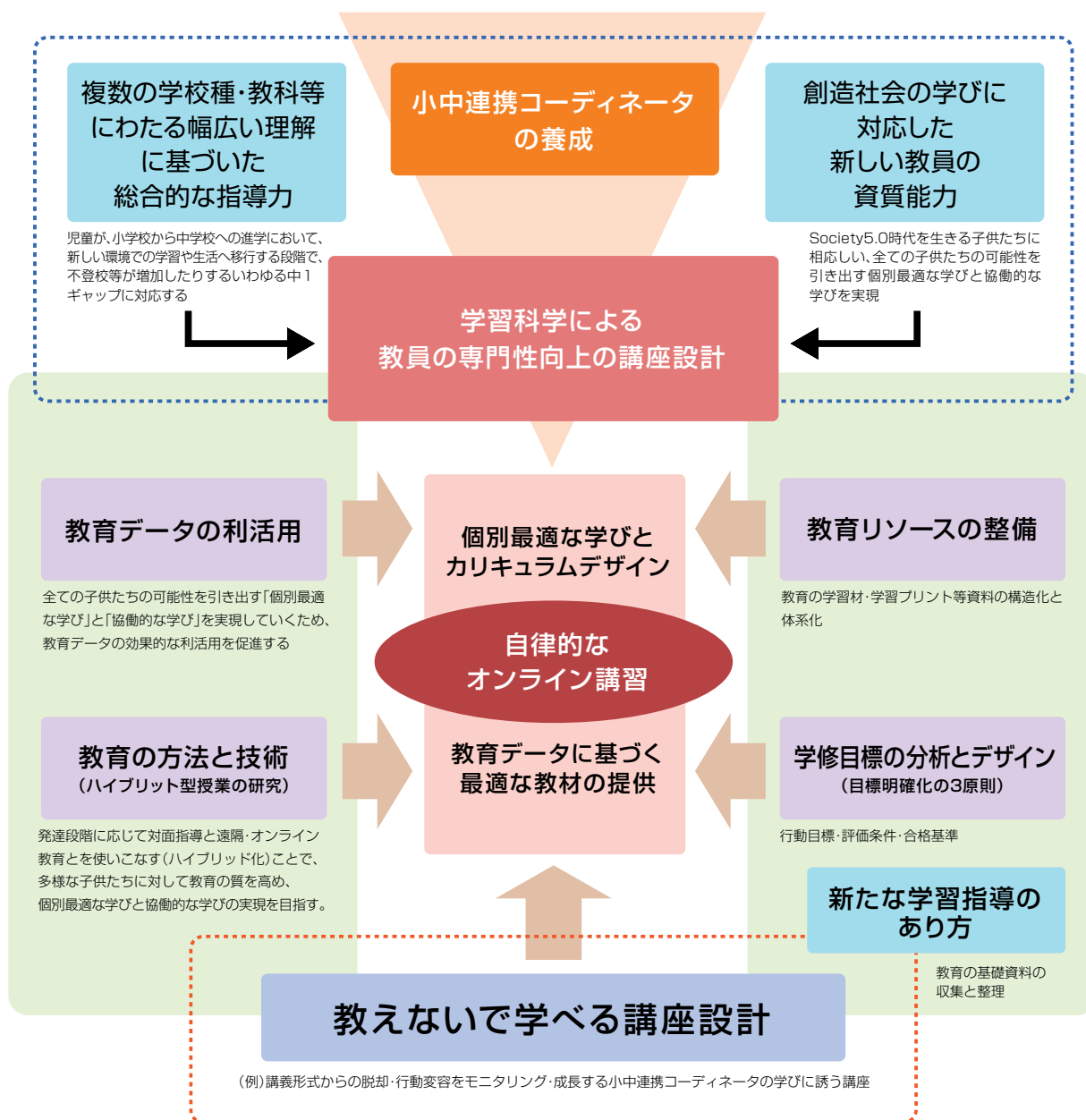
現職教員の新たな免許状取得を促進する講習等開発事業

具体的な取り組み方法

- ◎ 自律的なオンライン講習のカリキュラムデザインと教えないで学べる学習環境の設計
- ◎ 教育データの利活用と新たな学習指導の開発
- ◎ 学習環境としての教育リソースの整備

評価検討委員会

自律的なオンライン講習のカリキュラムデザインと
教えないで学べる学習環境の設計



発行年月日 令和4年7月
発行所 岐阜女子大学



〒501-2592 岐阜県岐阜市太郎丸80番地
TEL. (058) 229-2211 FAX. (058) 229-2222
URL: <https://www.gijodai.ac.jp/>